

「平成25年度普及に移す成果」



農業総合センター園芸研究所

## 1～2月どりハウス栽培レタスの保温方法

1～2月どりハウス栽培レタスでの凍害の発生抑制には、慣行の1重トンネル被覆に内張りカーテンの併用、又は1重トンネル被覆にアルミ蒸着フィルムや空気緩衝被覆資材の併用が有効です。



### 保温方法

慣行の1重トンネル被覆に内張りカーテンを併用することで、 $-2^{\circ}\text{C}$ 以下への遭遇を回避することができます。凍害の発生を抑制できます。内張カーテンの設置が困難な場合、1重トンネル被覆にアルミ蒸着フィルムの併用が効果的です。さらに空気緩衝被覆資材を併用することで、内張カーテン併用の場合と同等の保温効果が得られます。

保温方法の違いと気温、凍害発生株率及び生理障害株率

保温方法	平均日最低 気温 ( $^{\circ}\text{C}$ )	最低極温 <sup>1)</sup> ( $^{\circ}\text{C}$ )	$-2^{\circ}\text{C}$ 以下 <sup>2)</sup> 遭遇時間	凍害発生 <sup>3)</sup> 株率 (%)	生理障害株率 (%)		
					タケノコ球	肘肋突出	扁形球
1重トンネル+内張りカーテン	2.6	0.5	0	0	10	30	5
1重トンネル+アルミ蒸着フィルム	0.7	-1.1	0	0	0	20	0
1重トンネル+アルミ蒸着フィルム +空気緩衝被覆資材	2.6	1.4	0	0	13	40	3
1重トンネル (慣行)	-1.2	-3.1	33	58	0	0	8

注 1) 栽培期間中に記録した気温の最低値 2) 一般に凍害が発生するといわれている温度 3) 商品部分に凍害が発生した株の割合

### 被覆開始時期

トンネル被覆開始時期は12月下旬とします。11月上旬から被覆を開始すると、収穫時期は前進しますが、生理障害の発生が増加します。

被覆開始時期の違いと収穫までの日数、全重、調整重及び生理障害株率

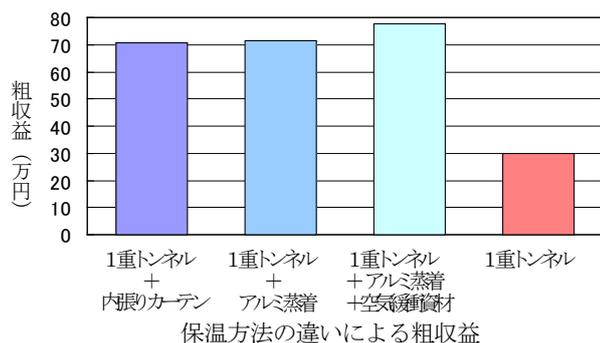
被覆開始時期	収穫までの 日数 (日)	全重 (g/株)	調整重 (g/株)	生理障害株率 (%)		
				タケノコ球	肘肋突出	扁形球
11月10日被覆開始	80	590	371	3	70	3
12月27日被覆開始	84	547	341	0	45	5
被覆なし	82	495	283	0	49	0



肘肋部が突出 (矢印) した株

### 粗収益

粗収益は、慣行の保温方法に対し、内張りカーテンの併用、又はトンネル被覆へのアルミ蒸着フィルム等の併用により2倍以上になります。



### 活用上の留意点

10a 当たり1年間の資材費は、3年使用すると仮定した場合、アルミ蒸着フィルムが6.5万円、空気緩衝被覆資材が3.4万円になります。

内張りカーテンを新規に導入する場合は、資材費の面から本レタス栽培のみを対象としての導入は難しいため、他品目と組み合わせた作付け体系での併用とします。

<問合せ先：園芸研究所野菜研究室 Tel 0299(45)8341>